



左が小倉くん、右は劇団仲間の神保くん

雨の中のマラソン

■僕は、脳性麻痺で手足が不自由なため、車いす生活をしています。車いすで雨の日に出かけるのは大変です。そんな僕が保育園の時、リハビリの先生に勧められて『長良川ふれあいマラソン』に参加するようになりました。開催されるのが台風と重なる季節で、雨が降ることもあります。この時も雨が降って、車いすを操作するのは大変でしたが、一緒に参加した仲間と特別賞をもらえ、忘れられない思い出になりました。

(岐阜・朗読劇団そらまめ 小倉壮広)



雨は迷惑だけど

■雨の日の外出は面倒です。両手は白杖と傘でふさがり、荷物が多い時はどうする？ 乗り物のバスはどうやって出す？ 雨が傘に当たる音、車が水を撥ねる音等でいつもとちがう音環境で安全に歩かなくてはいけない。視覚障害のある私にとっての雨は生活力を磨くバリアです。でも少しはいいことも。高校生の頃、ほかに傘がないからと周りに言い訳しながら好きな子と相合傘ができたとか、できなかったとか…。

(長野 長崎 勤)



奈良県で、米・小麦・ブルーベリー等を栽培しています(筆者右)
雨の日はお米の選別。ピンセットで目を凝らして

頼もしきFarmerたち

■雨の日は、小麦の選別、精米、出荷作業。
「チマチマしていらんわ」「眠くてたまらん！」
「今日は腰が痛いからちょうどいいわ」……雨と水がなければ田植えはできませんし、晴れの日もなければ、田を起こせません。雨も晴れもあって、実りを迎えます。でも、外のしんどい作業が続いた日には、だれかが「雨あめ降れ降れ、も〜っと降れり」と歌うように、時には優しい雨と、屋内作業を待ちいそしむアンダンテ農園のみなさんです。

(奈良・アンダンテ農園 山本康弘)

ガジュマルのように



ゆんぬカルタ



■『がじゅまるのように育てワラビンチャー(こどもたち)』。ゆんぬ(与論)カルタの読み札の1つです。キラキラの太陽と、そして雨を蓄えて、ガジュマルの木はぐんぐん大きくなります。こどもたちも、おひさまをいっぱい感じて走り回ったり、雨が止むのを大人や友だちと一緒に待ちわびてみたり、そして、雨上がりの水たまりにジャボンと入って心が躍ったり。さまざまな経験を蓄えて、ぐんぐん大きく育ててほしいと思います。

(鹿児島・与論島 竹岡久美子)

雨の景色

特集

まもなく梅雨。みなさん、雨の日はどう過ごしていますか。

濡れるのがイヤ、足元が悪い、でかける準備が大変、なんとなく気持ちが沈む…そんな声が聞こえてきそうです。一方で、雨の日にしか見れない景色や雨の日グッズの活躍に気持ちが弾むこともあるかもしれません。良い面もそうでない面も含めて私たちにとって身近にある雨。いろんな角度から雨ってなんだろう、雨の日ってどう過ごしたらいいんだろうと、雨に思いを馳せてみませんか。

雨の日 はれの日 ありがたやー



■「くに地蔵」は普段、みなさんが思っていないようなユニークな物です。二次障がいが出てきたので、リハビリに描いてはヘルパーさんや友だちに見てもらってました。何度か個展を開いているうちにくに地蔵が観てくださる方を笑顔にできることが実感できて、それから10年以上描いていましたが、コロナの影響で体のメンテがむずかしくなり、今は描いたり描かなかったり。この絵、『雨』は梅雨に描いた絵で、晴れてばかりでも雨ばかりでも人間は困るのか〜と、お地蔵さまが『雨の日 はれの日 ありがたやー』と、手を合わせている絵です。(愛知 中村くに子)



くに地蔵『雨』